令和7年度豊橋市健幸なまちづくり協議会生活衛生部会 議事録

- 日 時：令和7年7月2日（水）午後1時30分～午後3時
- 場 所：豊橋市保健所・保健センター 1階 第2会議室
- 出席者：豊橋市健幸なまちづくり協議会 生活衛生部会委員4名（欠席1名）

発言者	内容
事務局	資料1「豊橋市動物愛護センターについて」の説明（8分程度）
C 委員	愛称を募集していましたが、決まりましたか。また、どれくらい応募がありましたか。
事務局	審査中です。応募は700件程度。関心が高かったです。ほぼ豊橋市民からの応募でした。
C 委員	動物愛護センターへの関心度が高いというのは、肌で感じています。中核市なのに動物愛護センターがないとずっと言われてきましたし、私たちも10年くらい前からずっと要望を出してきました。私たちは、楽しみというより、これで少し楽になりたいという思いで待っています。ボランティアの負担が大きすぎます。この時期は子猫保護の依頼や手術相談が来るのですが、朝5時30分から11時くらいまで引き取りの相談などがありました。今年は、子猫の引取相談が過去最高です。相談件数も1年で1,100件くらいありました。その中で6割強が、保健所に電話した後に、私たちに電話してきます。こういう流れをどうしていったらいいか含めて話をしていきたいです。
A 委員	なぜ保健所で相談が終わらないのでしょうか。
C 委員	子猫の引取相談に対して、保健所では自活できる野良猫の保護をしていないということ、また、相談する人も保健所の説明を理解できていません。聞く人にもよりますが、電話だけだとわかりにくいです。聞く方も状況をよくわかっていないし、答える側は、相談を聞いただけだとわかりにくいことが多く、電話だけでは成立しない話が多いです。保健所に断られたと思ったり相談してよくわからなかった方がこちらに相談されます。引き取り依頼は必ずこちらにきます。私たちは朝から夜中まで動いて対応してきました。豊橋の場合は、高齢者の方が絡む猫の相談が多いです。猫が増えて餌やり問題や、餌をあげての近所トラブルなどがあるのですが、高齢者の方は知識もないし、動けないしどうしていいかわかりません。この問題は社会現象だと思います。多頭飼育崩壊もそうです。保健所は土日祝が休みですが、

私たちに休みはありません。動物愛護センターができることによって一緒にやっていける大きな課題として、野良猫問題を解決していくのに、豊橋では十分な周知がされておらず、理解されていないため、動物愛護センターができたなら、それを一番にやってほしいです。保健所の人たちは電話で説明していて、現地に行く人は少ないです。もっと現場に出てほしいです。現場対応を保健所の人にやってもらって現状を知ってほしいです。私たちは必ず現場に行きます。現場に行くとは解決やらなければならないことが見えます。やらなければいけないことも増えますが、ぜひ動物愛護センターができることによって、現場に行って現場を知っていただきたい。そこからやらないと元栓が閉まらないです。元栓が閉まらないから野良猫も捨て猫も減らないと思います。私は 23 年前に団体を設立しましたが、野良猫や捨て猫が減った実感はあまりありません。増えてはいいませんが、楽になってきたという感じがありません。それをなんとかしてほしいというのが要望です。このままではボランティアが倒れてしまいます。別の団体が疲弊しており、そこで 70 匹くらい猫を保護しているのですが、それをどうするのが直近の問題です。ボランティアが持ちこたえられなくなる時が来ます。市民の無理解、元栓が閉まっていないからです。それを強く言いたくて来ました。

A 委員 動物愛護センターに期待される場所は大きいと思います。そのほかにご意見はありますでしょうか。

B 委員 犬猫譲渡について伺いたいのですが、譲渡の年齢制限があるそうですが、何歳くらいからですか。私の知り合いで 70 代くらいの方が、飼い犬が老衰で死んだので保健所に行ったら断られて、ペットショップで買って来たそうです。その年代だと保健所からの譲渡は不可能ですか。

事務局 65 歳を超えた方には、ある程度の条件が合えばお譲りしており、まったくダメということではありません。その場合、もし飼えない状況になった時に引き受けてくれる方がいれば譲渡可能です。今のお話を伺うと、70 代の方がペットショップから子犬を買ってくると、飼い主の方にもしものことがあった場合に犬だけが残されてしまうという状況が起こってしまう可能性があるため、対策を考えていかないとはいけません。

B 委員 ペットショップにいくと何歳でも売ってもらえます。そうすると、あと何年飼育できるのか。場合によっては、飼い主が先に亡くなってしまって犬だけが残されてしまう可能性もあり、そのまま放置すると

	野良犬になってしまいます。今日も町内から要望書をもってきたのですが、その方は猫を飼っていて、最後まで飼育できるかを心配されています。市からペットショップにも年齢制限をお願いすることはできないのでしょうか。
事務局	行政から年齢制限について指導することは難しいです。しかし、飼う方自身に対して、年齢を考えたうえで飼育をするような啓発をしていきたいです。私案ではありますが、人の寿命が伸びているので、65歳の年齢制限を検討する余地はあるのかなと思います。高齢でもほしい方がいらっしゃるなら、動物愛護センターで譲渡されない動物を対象にお譲りすることも、方向としては考えていく必要があるかと思います。ペットショップで購入される方も含めて、飼い主の責任などの啓発には力を入れたいと思います。
A 委員	私見ですが、人の健康維持に関する動物の役割はすごくあると思います。お歳を召されていればいるほど、動物がそばにいるのは健康維持に良いと思います。自分が歳をとっているから飼えないというのは、その人の健康維持をストップしているのではないのでしょうか。ある程度の年齢の方は、動物が亡くなるともう飼えないと仰いますが、そういうことではないのではないのでしょうか。飼い主が先に死んでしまうことは当然あり得ますが、そうなっても大丈夫なように、亡くなられた方の動物の譲渡のシステムなどを今後皆さんでお考えいただけると、人間の健康の増進に良いのではないのでしょうか。
C 委員	高齢の方に、譲渡するというよりお預けしてなにかあれば引き取るということ、うちはもうやっています。ただ猫は脱走されると困るので、家の状況は確認しています。
D 委員	高齢者が亡くなったり施設に入ったりすることを理由として、持ち込まれる犬猫がすごく多いと思います。私たちも社会福祉協議会から直接連絡を受けることが増えました。今後は、社会福祉協議会と市が直接連絡をとって解決してもらえないのでしょうか。
事務局	歩みが遅くて申し訳ないのですが、福祉部局と連携を取り、事前の情報提供や連絡体制を密にとれるよう話を進めているところです。
D 委員	豊橋は、市営住宅の立て直しがどんどん控えています。10年前に植田の市営住宅が取り壊されたときも、かなりの捨て猫があり、私たちが引き取り先を見つけましたが、住宅課とも連携をとっていただけられないのでしょうか。当時はたくさん捨てられていました。

事務局	動物愛護センターができて、動物の愛護及び管理に携わる行政機関として独り立ちします。現場の意見に耳を傾けることが大事なのかなと思っています。できることからひとつずつ成長しなければいけないと思っています。
C 委員	市営住宅は動物の飼育が禁止されていますが、私たちの知る限り 7割以上の入居者が犬猫を飼っています。10 数年前までは住宅課の方が、動物を飼っていたら退去させますよと言って回っていましたが、問題が起きてから住宅課は強く指導しなくなりました。引っ越すときに猫を置いていってしまう人もいます。住宅課は住宅法によって敷地に猫を置けないと言いますが、私はそこで地域猫をやろうと話をして、豊橋が日本で初めて、市営住宅で地域猫をやりに、ニュースになり議会にも取り上げられました。しかし、一例だけです。市営住宅の敷地内は野良猫がたくさんいます。そこで猫に餌やりをしていないところを知りません。そういう猫がボランティアのところに来てしまいます。相談する人は引き取らなければ捨てる、と必ず言います。私たちのシェルターに猫が 260 匹います。運用費も莫大です。また、公園内で地域猫の手術をするのも難しいです。公園緑地課は少し動くようになりましたが、保健所との連携がうまくできておらず、時間がかかりました。手術するにも補助金が使いにくいですし、私たちは全部自費でやっています。こんなに現状が大変だと知っていただきたいです。私たちが働きかけていずとできていないのが、自治会に話をして、高齢の方が動物を飼っている場合、何かあった際に備えて例えば民生委員が把握して地域としての受け皿になるなど、地域の方が関わってほしいです。
B 委員	自治会には動物に関する依頼はほとんどないです。
C 委員	保健所をお願いしたいのは、自治会を説得してほしいです。自治会に地域猫の話が行き渡っていないので、自治会長で知らない方がたくさんいます。現場に出てもっと周知をお願いしたいです。そこで元栓が閉められれば、捨て猫や野良猫が減ります。子猫が生まれなければ保護や譲渡は必要なくなります。そこが一番の要望です。
事務局	究極の目標は動物愛護センターに引き取られる動物がいなくなることです。教育啓発は大事だと思っています。自治連合会の啓発については、春先にいつもお願いしているところですが、教育啓発は市が担っていくべきだと思うので、力を入れていきたいです。

C 委員	愛知県でいちばん地域猫が進んでいる市は大府市です。なぜ進んでいるかという大府市環境課の方とボランティアと県動物愛護センターの3者で全部の自治会を毎年回るそうですが、何年も続けて回ったら、もうわかっているから来なくてよいと言われたそうです。猫が増えたら手術するなどシステムが完全に出来上がって、猫が減ってボランティアが楽になりましたというところまで行ってほしいです。
B 委員	我々のところには、災害時のペットの訓練をやってほしいという要望がきます。校区単位でなくても、各町内でどんな訓練でもいいのでやってほしいとお願いしています。大型犬の訓練をやってほしいという要望はたくさん来ています。
A 委員	ペット防災にマニュアルはないのでしょうか。何をどうすればいいかわからないというのが獣医師会の中でも問題になります。
事務局	防災に関していうと、一昨年くらいからペット同伴避難訓練というのを年何件か実施しています。豊橋市では各校区でペット受け入れることになっていますが、場所は屋外だったりすることもあるので、全施設チェックをして再検討をお願いし、対応していただいている校区もあります。また、ペット同行避難に関するマニュアルを作成し、スターターキットを各避難場所に設置しました。スターターキット内にある指示を一つずつやっていくと、ペット用の避難場所ができるという仕組みです。今後はスターターキットの使い方を啓発する必要があると思っています。防災訓練のお手伝いや講習会の開催などについても市へ相談してください。 地域猫の啓発については、できない場所で法律を侵してまでやってくださいとは言えないですが。
C 委員	市営住宅だと法律外でもやれましたよ？あのときは市役所では住宅課と話しましたが、保健所は関わっていませんよね。
事務局	犬猫の相談があれば住宅課から保健所へ相談が来ます。その件に関してはこうしたらどうでしょうかとお示しして、こういう結果になったと思っています。
C 委員	私はそう思っていないです。
事務局	犬猫の件で何かあれば、必ずうちに相談が来ますので、そこはご理解いただきたいです。

C 委員	動物愛護センター建設前からボランティアとの連携を言われていたと思いますが、ボランティアに求められているのは何でしょうか。
事務局	団体譲渡は正式に形を作ってやっていきたいです。譲渡会を単独でされていると思いますが、動物愛護センターの敷地を使って一緒にやっていきたいと考えています。
C 委員	譲渡会を一緒にやるのは難しいと思います。譲渡金額が全く違うので。
事務局	金額は条例で定めています。動物愛護センターの手数料算定の基礎となっているのは、譲渡直前のワクチンとマイクロチップの金額だけです。譲渡する犬猫をすべて不妊去勢手術する訳ではありませんが、動物を管理する上で必要な場合に不妊去勢手術を実施することはあり、その費用は譲渡費用から除いています。
A 委員	保健所は公的な団体で、かかっているお金の出どころが違います。差はあって当然だと思います。これについては三者で相談して今すぐこの場で決めなくてもよいのではないのでしょうか。
C 委員	私たちは必ず譲渡前に相手の家を訪問して確認します。保健所はしていませんよね。譲渡後より譲渡前の確認の方が大事だと思います。うそをつく人が多いからです。詐欺をしようと思う人は虐待目的で猫を何匹も連れていくことがありますし、命ですから事前のお宅訪問は私たちの場合は必須にしています。この問題は今後話し合っていくしかないと思います。
事務局	やり方のところで、例えば民間のスポーツ施設と市の施設で料金が違うことはあります。愛知県、他自治体、動物愛護団体の状況は把握していました。これまで伝えられる範囲で皆さんには相談させていただきましたが、例えば、運用の中で、SNS などを使って、少し動物愛護団体さんの動物を強めに PR することができるかなと。
C 委員	後日お話ししましょう。もうひとつ、補助金は絶対に残してください。残さないと困ります。豊田市は相当動物愛護センターで手術をやっていますが、すぐにあそこまでできるでしょうか。補助金の金額は上がって、個人の負担が少なくなり、使いやすくなりましたが、予算の上限があるので手術できる頭数は減りました。みんなほぼ無料でできるとわかったらやりますが、補助金はなくなったらやらないと

A 委員	<p>いう人が増えました。そうすると猫が出産して数が減らないです。手術に関しては、動物愛護センターでも手術をされるので、おそらく手術件数は増やせますよね。そうはいつでも限りはあります。そのあたりは、豊橋獣医師会と何らかの契約をして、市でできない分は獣医師会がやるとか相互協力していければと思います。そうすれば補助金ではなく獣医師会との契約でやっていけばよいのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>ありがたい申し出だと思います。</p>
A 委員	<p>いま SFTS の問題があります。先日、三重県の獣医師が亡くなりました。人間での発症も多いです。基本的にはダニから感染する病気ですが、動物病院従事者で発症している人は、猫から感染しています。幸い豊橋では発生していませんが、今年に入って豊田で発生しています。豊橋でも今後発生する可能性はあると思います。保護猫や地域猫に対する扱いをどうするべきか、そういうことに従事している人たちが感染してはいけません。豊橋市で発生した場合、猫の保護譲渡業務をどうするのか、ボランティアはどういう対処をとるのか考えておいてほしいです。</p>
事務局	<p>国からも通知が色々出ています。それに基づいてやっていきたいと思います。市ではホームページにお知らせを載せています。直接従事する人がどうするかは、この先考えていかないといけません。</p>
A 委員	<p>愛知県では、動物愛護センターだけでは保護動物の疾病治療は知識技術的に限界があるため、愛知県獣医師会と疾病治療の支援の協定を結んでいます。豊橋市は、こういった連携も考えていますか。</p>
事務局	<p>制度ができているのは承知しています。まずは県の獣医師会と相談していくのかなと思いますが、とてもありがたい申し出なので、前向きに検討したいです。</p>
事務局	<p>資料2「豊橋市動物愛護センター開所関連催事について」の説明 (3分程度)</p>
A 委員	<p>記念式典には何人くらい集まりますか。</p>
事務局	<p>何人です、とは言えないですが結構な数になりそうです。テープカットがあってオープンです、というような式典を計画中です。動物愛護センターができるということは、この生活衛生部会で議論も重ねて</p>

	きました。開所にあたってはぜひ皆様にもお声かけしたいです。
D 委員	クラウドファンディングを実施されていましたが、何を対象にしていたか。
事務局	ケージなど、施設内の設備の一部です。
C 委員	今後もやるのでしょうか。
事務局	実施することを検討していますが、詳細は決まっていません。
A 委員	動物愛護管理推進計画はこれで終了ですか。
事務局	動物愛護センター整備が推進計画最大の課題でした。この課題は、センター整備が進んだことで一定の成果を得たことから、昨年度で市の推進計画は終了しました。推進計画自体は法律で県が定めることになっていることから、引き続き今後も県の計画に沿って進めていきます。
C 委員	もっとこういった会を開催してほしいです。上の人に知っておいてほしいので、また検討してください。
事務局	活発なご意見をいただきました。引き続き皆様とは連携して話し合っていきたいと思っています。今後ともぜひともよろしく申し上げます。